

荒野の誘惑とその克服

マタイ 4：1～11
ルカ 4：1～13

2022年3月9日

井田 泉



わたしたちを

誘惑におちいらせず

悪からお救いください

「主の祈り」の第6番目、
最後の祈り

主イエスはこの祈りをみずから祈り、
またこれを弟子たちに祈るように教えられた。

わたしたちがこれを祈るとき、イエスが一緒に
祈ってくださる。

みずから誘惑に苦しまれた主イエスは、
わたしたちの試練のとき、
わたしたちを助けることがおできになる。

マタイによる福音書 4 : 1

さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、“霊”に導かれて
荒れ野に行かれた。

「イエスは……行かれた」

イエスが自分から行かれたように読めるが、原文ギリシア語は「連れて行かれた」（受け身）というニュアンス。

（神の）“霊”がイエスを導いた。

「悪魔」（サタン）神に敵対するもの。人を捕らえ、神から引き離して誤った道に導き、滅ぼそうとする。

（聖書の中でも時代により性格が異なる。）

「誘惑を受けるため」

「試み」「試練」とも訳せる。

「荒れ野」不毛、孤独の地。

かつて出エジプトの民は、荒れ野で40年を過ごした。そこで神は民を教育・訓練された。



ユダヤの荒れ野

4 : 2

そして四十日間、昼も夜も断食
した後、空腹を覚えられた。

「四十日間……断食」

生存の限界、死の危険の状態。

かつてモーセは、神から十戒を再授与される際、
40日40夜断食した（出エジプト記34:28）

エリヤは神の山ホレブに至るまで40日40夜歩き
つづけた（列王記上19:8）。

イエスはかつての「神の人」イスラエルの指導
者モーセ、エリヤを継承する者であることが示
唆されている。後にイエスの山上の変容貌のとき、
モーセとエリヤが現れてイエスと語り合う
（マタイ17:3）。

「断食」神の前に自分を整える祈りの行為。

「空腹」「飢えた」ということ。



4 : 3 (第1の誘惑)

すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」

「誘惑する者が……言った」

飢え、衰弱、孤独の中で悪魔（サタン）の声だけがささやく。

「神の子なら」。「あなたが神の子で特別な力と使命を持った者であるなら、当然できるだろう」という巧妙な誘導。6節でも繰り返される。

※イエスは人を救うため人となって来られ、人と同じになり、人の苦難、弱さを自分の身に引き受けられた。超能力を発揮して自分を救うことは、その道に背くことだった。悪魔の意図はイエスの道を阻止することにある。

「キリストは、神の身分でありながら、……人間と同じ者になりました。」フィリピ2:6-7

※サタンは、「神とか信仰とか言っても、結局は自分の生活が最優先ではないか」とささやく。

4 : 4

イエスはお答えになった。

「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」

「イエスはお答えになった」

イエスの返答は明確で端的。サタンと話し合い（議論）はしない。誘惑に対しては拒絶のみ。

「書いてある」

聖書・申命記の言葉によって誘惑を退ける。

（三つの誘惑に対する返答はいずれも同じ。）

→ここで用いられた言葉は次の頁に。

イエスは聖書の言葉をただ記憶しておられたというのではなく、それによって生きておられた。

「神の口から出る一つ一つの言葉で生き」ておられた。

神の言葉は人を生かす。

申命記8：3

主はあなたを苦しめ、飢えさせ、あなたも先祖も味わったことのないマナを食べさせられた。人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きることをあなたに知らせるためであった。」

※これが第1の誘惑を退けた言葉の元。

※この箇所をヘブライ語で聞いてみる。

אִם-לֹא^b : וַיַּעֲנֵךְ³ וַיִּרְעַבְךָ
וַיֹּאכְלֶךָ אֶת הַמָּן אֲשֶׁר לֹא-יֵדְעָה
וְלֹא יִדְעוּן^a אֲבֹתֶיךָ לִמְעַן הוֹדִיעֶךָ
כִּי לֹא עַל-הַלֶּחֶם לְבָדוֹ יִתֵּינָה
הָאָדָם כִּי עַל-כָּל-מוֹצֵא כִּי-יֵהְיֶה
יִתֵּינָה הָאָדָם⁴ : שְׁמֹלֶתְךָ לֹא בָלְתָה



4 : 5 (第2の誘惑)

次に、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、

「聖なる都」

エルサレム。

「神殿」

もつとも神聖とされた場所であり、人々がもつとも多く集まる場所。紀元前500年頃に再建された神殿（第2神殿）をヘロデ大王が拡張した。

「連れて行き」「立たせて」

悪魔の主導で事が進められる。

幻視のようなものであったかもしれないが、イエスにとってはリアルなもの。

神殿の屋根の端からは、神殿の庭にいる人々をはじめエルサレム全体とその周辺がはっきりと見える。



4 : 6

言った。「神の子なら、飛び降りたらどうだ。

『神があなたのために天使たちに命じると、
あなたの足が石に打ち当たることのないように、
天使たちは手であなたを支える』
と書いてある。」

「神の子なら」（2回目）

この言葉は十字架の上のイエスにも投げつけられる。「神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」マタイ27:40」

サタンは「飛び降りて無事であることによって、神の子であることを示せ」とそそのかす。神を試す誘惑。また奇跡を行う英雄として人々の前に華々しく登場して人心をつかめ、という誘惑。

「書いてある」サタンは4節のイエスの返答をまねて聖書の言葉を使う。聖書の言葉を悪用する巧妙さ！

『神が……支える』これは詩編91:11-12の引用。ただし「あなたの道のどこにおいても」を省いている。これは意図的な省略かもしれない（イエスに、自分の道＝神に仕える道を思い出させないように）。

※聖書の言葉を用いる巧みな誘いに要注意！

4 : 7

イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある」と言われた。

「書いてある」

イエスの2回目の返答。

「……主を試してはならない」

これは申命記6:16の引用。申命記のこの箇所では、出エジプトの旅の途中、マサという所でイスラエルの民が渇きに苦しんだ際、神を試したことに言及している（出エジプト記17:7）。

神を直接試す、ということは考えにくい。しかし、神から遣わされた指導者モーセを侮（あなど）って「主が我々の間におられるのかどうか。おられると言うなら、あなたがここで水を出してみよ」と迫ることは、神を試すことであった。

神を試すというのは、もはや神を礼拝する姿勢を捨てて神の能力を実験するという不遜な態度である。

4：8（第3の誘惑）

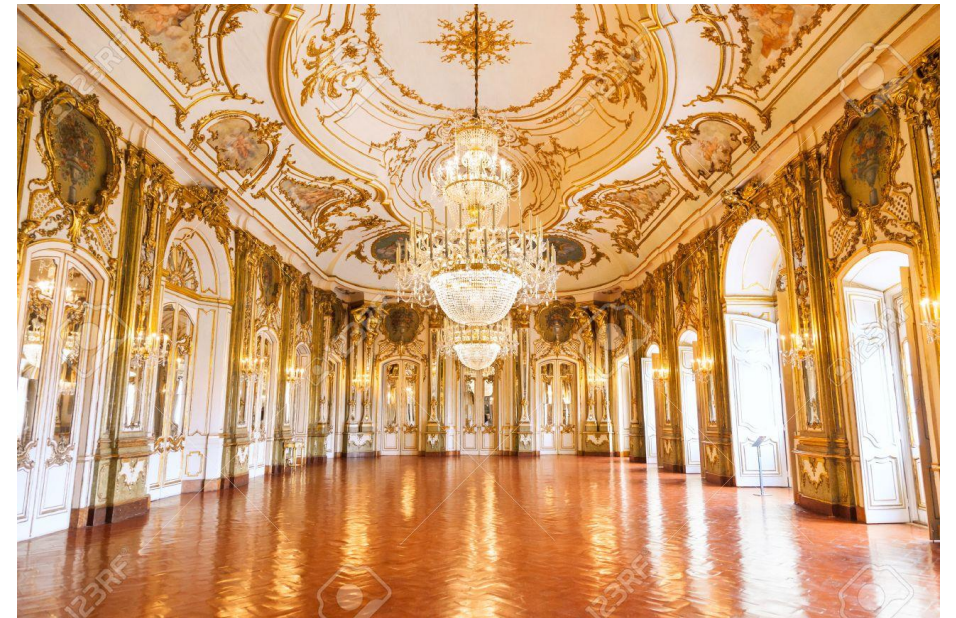
更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、

サタンの誘惑（攻撃）はここで頂点に達する。

「繁栄ぶりを見せて」

サタンはイエスにこの世の権力と栄耀栄華を見せて、幻惑しようとする。

シントラ（ポルトガル）
の宮殿





JAPAN BIBLE SOCIETY

ヘルモン山
2814m

4 : 9

「もし、ひれ伏してわたしを拝
むなら、これをみんな与えよ
う」と言った。

「ひれ伏して」はルカの平行箇所（ルカ4:7）にはない。これはサタンの本音を明確に描き出すために、マタイ福音書記者が書き加えたのかもしれない。

「わたしを拝むなら」

第一戒（十戒の中の第1）に反すること。

「あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない。」出エジプト記20:3、申命記5:7

※富、財産、地位、権力、世の評判……を獲得するために（あるいは保身のために）、真実に背く（神に反する）という誘惑がある。それは公然と襲ってくるとはかぎらず、ひそかに巧妙に迫ってくることがある。

4 : 10

すると、イエスは言われた。

「退け、サタン。

『あなたの神である主を拝み、
ただ主に仕えよ』
と書いてある。」

「退け、サタン」

断乎たる命令。イエスは「サタン」と名を呼んだ。名を呼ぶことは相手の正体を暴くこと。

「書いてある」

三つの誘惑とも、イエスは聖書の言葉（申命記）によって退けた。ここは申命記6:13。

「6:12 あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出された主を決して忘れないよう注意なさい。13 あなたの神、主を畏れ、主にのみ仕え、その御名によって誓いなさい。」

「解放」という恵みの土台の上に「……せよ」という命令がある。

※主を礼拝する（個人として、また共同体として）ことがわたしたちの基本。わたしたちにもイエス・キリストの十字架と復活によって罪と滅びから解放された、という土台がある。

4 : 11

そこで、悪魔は離れ去った。
すると、天使たちが来てイエ
スに仕えた。」

ルカ福音書4 : 14

イエスは“霊”の力に満ちて
ガリラヤに帰られた。

「離れ去った」
悪魔は敗北して退く。

「“霊”の力に満ちて」
イエスは誘惑（試練）を受けることとそれを克服することをおして、神の霊によって著しく強められた。ここから公の活動が始まる。

ディートリッヒ・ボンヘッファー「誘惑」から
(ボンヘッファー選集9『聖書研究』、新教出版社)

「誘惑は、聖書的な意味では、力をためすことではなくて、すべての力を失うことであり、無防備でサタンに引き渡されることである。」

「イエスもまた、誘惑においてご自分の力をすべて奪われ、神と人間とから見捨てられてただひとりにされ、サタンの強奪を不安の中で忍ばなければならず、彼はまったくの暗黒の中につき落とされる。彼には、彼を固くとらえ、彼にかわって戦い、勝利するところの助け・守り・支える神の言葉以外に何も残っていない。」

VI	誘惑	
	わたしたちを試みに会わせないでください	
	二つの誘惑物語	
	アダム	
	キリスト	
	キリストに属する者におけるキリストの誘惑	
	誘惑をひき受けたもうキリスト	
	誘惑をけしかける三つのもの	
	具体的な誘惑とその克服	
	肉の誘惑	
	霊の誘惑	
	最後の誘惑	
	正しい戦い	

ディートリッヒ・ボンヘッファー「誘惑」から マルティン・ルターの言葉

「神はわたしを見捨て、もはやわたしを欲したまわないのではないかということよりほかに、人間の心は何も感じない。」

「しかし、わたしたちの主なる神が一人の人間を、こうこつとして、目から涙があふれ、冷や汗がふき出るほどに抱きしめたもう時、人間の心はかろうじて慰めを受けいれることができるのである。」

※わたしが神学生時代（1975～1977）に経験した誘惑（試練）はこのようなものであった。



ボンヘッファー「誘惑」から

「信仰者は誘惑の時を無防備で耐え忍ぶ。彼らの防備はイエス・キリストである。」

「すべての誘惑は、イエス・キリストにおいて、終りにいたるまで永遠にうち勝たれている。」



上野聖ヨハネ教会のフロンタル

ルカ福音書からイエスの言葉

第22章【最後の食卓にて】

28 あなたがたは、わたしが種々の試練に遭ったとき、絶えずわたしと一緒に踏みとどまってくれた。

イエスはともに苦しんだ弟子たちをねぎらい、いたわられる。

32 しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。

イエスは、試練・誘惑にさらされた弟子たちのために祈り、支えてくださる。

わたしたちもまた、立ち直ったときは人を支える。